

平成 21 年度 第 2 回 松阪市環境審議会 議事録

日 時 : 平成 22 年 2 月 1 日 (月) 13 時 35 分～15 時 35 分

場 所 : 松阪市役所本庁舎 5 階特別会議室

出席者 : 18 名

審議会委員 14 名

大橋純郎、門暉代司、須藤弘、筒井弘佳、富田靖男、福田昭、
牧戸継右、山本清巳、吉田弘一、笠井清、木原寿代、中村左恵、
西川浩美、野田宰治

事務局 4 名

橋本環境部長、三田環境課長、山口環境推進担当主幹兼係長、
環境推進係 (小山)

〈議 事〉

1. 松阪市環境審議会委員委嘱状交付式

- ・自己紹介
- ・松阪市環境審議会の役割について、事務局より説明

2. 会長・副会長選任

・委員からの自薦・他薦が無いため、事務局より会長に吉田弘一氏を、副会長に富田靖男氏を推し、委員全員の拍手によって承認される。

※吉田会長挨拶

※富田副会長挨拶

3. 平成 21 年度松阪市環境基本計画重点事業及び目標について

- ・事務局より報告

会長 : 何かご質問は？

委員 : 学校 I S O の認証機関はどこなのか？

事務局 : 松阪市独自のものであるため、教育委員会が認定するという形をとっている。

委員 : 2 年に一度更新し、認定される。

会長 : 三重県が各市に指導しているのか？

委員 : いや、松阪市独自のものだと思う。

委員 : 県立高校の場合は、三重県がやっている。

会長 : 他に何か？

委員 : 環境基本計画を出されて総合的に説明を受けたが、それが具体的に数値として反映されるのが予算である。環境関係の総事業費は4年間で45億円となっているが、どうですか？その内、第一清掃工場の改装関係に40億円、環境衛生の推進として浄化槽関係に4億円となっており、予算のほとんどをハード面に費やしているため、新エネルギーといったソフト面の事業費がいかにもお粗末になっているが、これで基本計画と予算の整合性が果たしてとれているのか？事務局にご説明いただきたい。

事務局 : 松阪市環境基本計画では「環境」を部門別に分けており、例えば文化関係であれば教育委員会の担当であり、自然に配慮した川の改修工事となれば土木課が担当となるため、必ずしも環境部が環境に関する予算の全てを持っているわけではない。

委員 : 予算配分ということだが、相変わらずハード面に予算のほとんどを費やすため、ソフト面が脆弱ではないのか？しかし、環境基本計画の理論付けとしてはソフト面に重点を置いているので、その辺の整合性はとれているのか？辻褄が合うのか？

事務局 : この重点事業を見てみると、担当局が農林水産課もあり、商工観光課もありと多方面に渡っており、確かに言われるようにハード面に多額の予算を費やしているが、だからといって、ソフト面で10億、20億といった多額の予算を費やすほどの事業は無いと思う。逆に、今後は市民・市民団体・事業者の方と協働で物事を進めていくという風になっていくので、そういう意味では予算はそれほど伴ってこないと考えている。

委員 : 「市民で」というのがポイントだと思う。市民や団体への補助金として4300万円ほどの予算を上げているが、43の小学校区に地域団体があるので、1地域約100万円位になってくる。「市民の協力と補助金を合わせて100万円くらいで納めよ」という松阪市の姿勢がみてとれる。この市民負担が、環境事業において将来的に増えるのではないか。ハード面は税金で松阪市がやるが、ソフト面の活動においては市民負担が増えるのではないかという懸念を持っている。市民を動かして低コストで行うという「ひがみ」みたいな地域の問題が出てくるので、もう少しソフト面にも、これは補助金という意味で無く、松阪市も目を向けて欲しい。

会長 : それで、パートナーシップ会議なのではないか？

委員 : そこが問題である。いわゆる住民協議会という組織ではなく、自治会に補助金を一括交付して事業を行いなさい、ということですよ。環境問題は市民も関心を持って改善しようとしているが、実際ほとんどがボランティアである。それがいつまで続けられるかという疑問。また、世代間で非常に考え方が異なっていて、特に今後中心となる 30~40 代の方々の参画意識が非常に低いので、その世代の意識を高めるような魅力作りをしてほしい。高齢者の方は環境問題に非常に関心を持っているし、子どもは学校で環境教育を受けているが、一番中心となる世代が中抜けになっているというのが地域の現状である。そういう活動の未来づくりのためにも、市にもある程度ソフト面での力添えをしていただきたい。

事務局 : 今までは「補助金」という形でいろいろ支出してきたが、ご存知の通り、日本全国において大変財政が厳しい状況になっていくと思われる中で、どの部分に税金を投入していくのが課題になってくる。環境課としては、出来る限り市民や事業者の方々に、自分たちが出来ることやしなくてはならないことは自分たちでお願いする、という行政としての位置づけを考えている。従って、「何でも補助金」という考え方は、環境課としては持っていない。

委員 : そういうことは要求していない。自分たちで出来ることは自分たちでやっている。地域環境保全に目を向けて欲しい、という願望である。お金のことを言っているのではない。住民協議会でこれからしなくてはならない事は増えてくると思う。

事務局 : 住民協議会の中に、環境部会や安全・安心部会が立ち上がってくると思われる。それを導いてくれる推進母体として、環境パートナーシップ会議を立ち上げ、進めている。そこで、住民協議会と環境パートナーシップ会議をどのように連動させていくか、現在考え中である。また、30~40 代の世代の方々については、環境に対し浅い部分があると実感しているが、環境課としては啓発、普及していく中で、子どもたちに呼びかけて、親も巻き込んでいこうということで、子どもたちに動物愛護ポスターを募集したり、三重中京大学短期大学部のフェアにおいて環境ブースを設け、子どもと親への環境啓発などを行っている。

委員 : 30~40 代の世代は企業で ISO をやっているもので、知識を持っている。私が言いたいのは、地域でその知識を活かせるように市がサポートしてほしいということ。環境運動に魅力がないと出てきてくれないので、いかに魅力づくりをするか。そういったことに目を向けて、市も予算配分をしてもらいたい。次にエコカーの問題。松阪市にエコカー、ハイブリッド車は何台あるのか？そういった促進をして、新エネルギー関係のリーダーシップをとってもらいたい。振興局には 1 台もハイ

ブリッド車が無い。市民に言うだけでなく、市が努力し行動するべきである。

事務局：松阪市もその方向で考えているが、エコカーは価格が高いので、軽自動車に基づくCO₂削減、燃料費削減ということで、その方向性で検討している。また、住民協議会でごみ減量や3R推進部会が立ち上がった場合は、リサイクルセンターも完成することから、資源循環推進課が率先して、市民・市民団体・事業者と共にゴミ減量や3Rの推進を進めたいと考えている。

委員：市には啓発活動をやっていただくとありがたい。

会長：他に何か？

委員：私は自然環境について活動しているが、松阪市にそういう話をもっていく場所がない。鈴鹿市のように、自然環境を網羅する部署があってもいいのではないかな？

委員：確かに自然環境の担当部署が無い。ここの重点事業にも挙がっていないが、ネイチャーマップができればそれで終わりというのではなく、次の取り組みを進める部署を作って欲しい。

事務局：平成22年度に組織が見直される。自然環境についても検討委員会にて議論されたが、全てを網羅した自然環境の部署はつくりにくい、というのが意見であった。

事務局：市の財政面が厳しく、職員削減による財源確保を行っており、環境も大事であるが、福祉や教育に重点的な方向性を出さねばならず、そういった中で、今いる職員でそれぞれの役割を進めている現状であるので、最終的には環境課の取組みになると思うので、ご理解いただきたい。

委員：基本計画P64に「～データベースの作成を検討する」とあるが、鈴鹿市は「作成する」と明記したので進めることができた。「検討」とある限り進めていくのは難しいが、対応できる部署については人員配属をお願いしたい。

委員：結局、環境部で対応できるのはごくわずかな範囲で限られている。他の部署も関わってくるので、もっと積極的に、横断的にできるような発想はないのか。人員削減という縮小方向だけではなく、もう少し前向きな発想は出てこないのか。

事務局：横の連携については十分とっていく。ネイチャーマップは一般市民も知らないようなレベルの高い素晴らしいものなので、市長も松阪市のPRとして利用している。市議会議員からも要望がでていっているので、より充実させたいと思っている。今後、ネイチャーマップの新たな作成、ステップアップを、横との連携をとりなが

ら進めていきたい。

委員 : 三雲にバードウォッチングが出来る場所があるが、住民が河津桜を植える活動を補助金無しで行っている。膨大な金をかけて公園を造らなくても、地域住民で小公園は造ることができる。そういう活動をどんどん進めていって、自然環境を保全していく。我々の子どもの頃にはたくさんあった自然が、現在は道路整備などで無くなってきている。そういった自然を再生させようと多くの方々が活動している。このような自然環境保全活動にも環境課が支援してほしい。

委員 : 学校への環境教育だが、いろんな可能性があると思う。ISO14001の外部、内部審査において、審査員が固定の人達だとどうしてもマンネリ化してしまい、それ以上進化、進歩しない。節水や節電はもちろんだが、もう少しスパイラルアップして、子どもに身近な環境問題を考えさせることにより、一人ひとりが目標を立てて、親も一緒に活動していくというような新しい切り口もできる。パートナーシップ会議とタイアップして、民間のボランティアなどが外部審査に行くと新しいアイデアも湧いてくるので、それを子どもたちに考えさせることにより、前向きな活動ができるのではないかと思う。

委員 : 小学校では4年生に環境教育を行っており、EM石鹸作りや環境ポスター作成、家庭における環境問題を発表するなど、多くの活動を行っている。また、地域と連携した自然環境に対する取組みも行っている。

委員 : 大人の中には環境への意識が低い人たちもいるので、子どもへの教育、特に低学年への教育をお願いしたい。

委員 : 松阪市に自然環境の部署がないのは、他市に遅れをとっている。

会長 : 松阪市の生物調査を早く行うように部長に伺いをたてているので、いずれできるのではないかと思う。

委員 : 市民参加の調査が大事である。

委員 : この項目を、早く最重点事業に挙げてもらわないと。

事務局 : 補足として、ゴミ減量・3Rとは何かという冊子を作成し、小学4年生に配布して社会科の授業に取り入れてもらうなど、重要取組みとして進めている。また、ゴミ減量と3R推進のポスター、標語等を子どもたちに作ってもらい、ゴミ収集車に載せてPRしている。ゴミ減量と3R推進のために職員が学校に赴くなどして、保護者も一緒に取り組んでいくように活動を行っている。

4. 松阪市環境パートナーシップ会議の経過報告

・事務局より報告

委員 : ベルファームでの環境フェアはなかなか良かった。

会長 : フェアについては、なるべく多くの人に来ってもらうためにも、広報を充実させてほしい。

委員 : 夏休み親子環境学習会に参加したが、ネイチャーマップには知らないことが多く載っていたので、是非今後も続けて欲しい。

会長 : 他にご意見があればどうぞ

委員 : 環境問題への市民意識が高いが、すでに浸透している 3R 運動やマイバッグの他にもまだまだ市民に啓発すべきことは多くあると思うが、その辺を環境課としてはどのように考えているのか？

事務局 : 平成 26 年度を目指し、ゴミ処理施設の更新を考えている。その前にやらなくてはならないことはゴミ減量と 3R の推進であり、指定ゴミ袋や分別の徹底を重点的に進める計画を進行中である。2 月 21 日にゴミ減量・3R 推進するシンポジウムを開催するなど、今後はそういった方向性を進めるように計画中である。

委員 : 鈴の音バスをできるだけ利用したいと思っているが、時刻表が路線バスと重なっているので、ずれるようにした方が利用者も増えるのではないかと。もう少し工夫してほしい。

委員 : なぜ鈴の音バスの担当が商工観光課なのか？市民には理解できない。また、本庁管内の市民へのゴミ分別の徹底をお願いしたい。本庁管内から 4 町へ転居してくる若年層が多く、特にアパートからの転居者のゴミ分別が非常に雑でいい加減なため、地元住民は迷惑している。

事務局 : 本庁管内も 24 年度までには指定ゴミ袋を考えているため、分別の徹底を行うように各所属長に方向性を出して進めているので、ご理解いただきたい。

委員 : 自治会長に全て問題が回ってくる。まちづくり協議会を助けると思って、問題解決の教育をお願いしたい。

委員 : 4町の住民はゴミステーションが散らかっていたら片付ける等するのに、本庁管内の方は自分がちゃんとしていれば他がどうなっても関心がないという人が多い。特に借家の人たちは分別の徹底がなされていない。立派なゴミステーションがある地域もあるが、あれは自治会負担なのか？

事務局 : 設備設置にあたって10万円の補助を出している。しかし、本庁管内にはゴミステーションを造る土地がないような場所もある。袋で出すと自動車に踏まれるなどして散らかりカラスが寄ってくるため、仕方なくダンボール等を出すという話も聞く。今後、ゴミステーションの設置については可動式のものも含めて検討していくので、もう少し時間をいただきたい。

5. その他

会長 : 特に意見がないようなので、今日はこのへんで。